
科学宗派の魔女

メネ@分家

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

科学宗派の魔女

【著者名】

メネ@分家

N3297P

【作者名】

【あらすじ】

朝起きると、なぜかロリがソファで寝ていた。……びっくり、ロリコン疑惑がかからないといいけど。

#一ふたべぐ（前書き）

ファンタジーなのかこれ？

あ、前に一回間違えたんで再投稿しました。

*「」の作品に登場する「魔法」「科学」は、現実世界ではまったく存在していない場合が多いと思います。「」の上、お読みください。

おーぷてんぐ

金髪ポニテ黒服貧乳口リ。

今俺の目の前で寝ている人物の特徴をまとめると、大体そんな感じになった。

しかし、それはあくまで俺が考えられる言葉で表した感じであつて、実際に見たならば別の印象を抱くかもしれない。つまり俺のボキヤブラー少ないと、いうわけなのだが、モテないのはこのせい。しかし、百聞は一見に如かずということわざがあるだろ？、などと脳内法廷にて弁明。

それについてこの金髪（以下省略）、そこいらのゲンスプレイヤーではないのは確かだ。

例えば金髪を見れば、染めたとは思えないほど地毛のよつだたし、黒服を見ればまるで世界の終焉のような漆黒で、年齢や身長、貧乳は（ステータスだ！）誤魔化し不可能。というかもはや、日本人ではないと思われる。先生、普通は金髪が地毛っぽい時点で外国人だと疑うでしょうと考えたその君、天才だな、帰れ。

なんて事はさて置き、事はもつと重大なのだ。だからまず、今この状況を把握する事が大事だと思うんだ、と自分に語りかける。自分との対話は大切です。きりつ、と自分で言つてみた。

……さて。初めは、何からが良いだろ？か。とりあえず王道に従つて、今に至るまで振り返つてみるかな。

深い眠りの中から、意識が少しづつ起き上がってく。ほんやりと起きているように感じるが、それでいてまだ寝たままのような錯覚を感じ、妙な快樂を覚えた。できることならいつまでもこの状態でいたいが、学業という仕事兼拷問がある俺には無理な願いだ。もう半年後には、人生初の受験が控えている。遅刻なんてしたら、……いや、一度くらいなら……。

寝たいッ。駄目だ、起きる。寝たいッ。内申が下がるぞ。寝たいッ。高校、スベつたらどうする。寝たいッ。ええい、うるさい起きろ！ 寝たい！

毎日のように行なわれる、心の中の葛藤。大抵は「起きる派」が勝つのですが、たまに「寝たい派」が勝利してしまい、遅刻しかけた事がある。まだ遅刻していない分、駅前でたむろつてばかりの不良よりはマシか。成績は同じくらい酷いけど、さ。

ふあああああ、と盛大な欠伸を一発。爽やかなスポーツマン風に、眠気が世界の果てまで飛んでいく。……いや、意味不明だけど。

「えーと、今日は……目玉焼きトーストにするか」

俺流三分クッキング！ 今回は目玉焼きトーストを紹介いたします。

まず材料は六枚切りの食パンを一つと卵とケチャップを用意して、それから数十秒でどうにかして、オープンで焼き上げると完成な訳です。調理途中の補完はご自分で。

ざくりもぐもぐじっくんぐびぐびむしゃむしゃ『じきゅじきゅもひもひ』くり「けふー」。

簡単な朝食を終えた後は簡単に制服に着替え簡単の、……なにがあるだろう。いいや、簡単に家を出た。

一応「行つてきます」とは言つたが、返つてくる言葉は何もない。家に誰もいないのだからそれは当然の事であつて、そしてその当然

は毎日の事だった。

所謂、一人暮らし。

中学生の身で、一人暮らし。

「良く考えると、凄い事だよなあ」

まあでも、世の中には生まれた時から親がないってのもいるし、ある日突然生き別れたってのもいるし、まだマシなんじゃないだろうか。……それに、天涯孤独という訳でもない。

つい先月、テスト爆発しろとかなんとか咳きながら帰った時の事。いつもならむしろウザつたいくらいに出迎えてくる両親の声がなく、姿も見当たらなかつた。不審に思いながらリビングにあつた書置きを見ると、……引きちぎりたくなる衝動を辛うじて抑え、「馬鹿野郎おおおおおおおおおーっ！」とアメリカに向けて叫んだ事が思い出される。内容は実のところあまり覚えていないが、要約すると「結婚十年目なのでアメリカ旅行行つてきます」だったような気がする。てか、普通中学生の男子を家に置いて旅行に行くか？……もう慣れたからいいけど、さ。

自転車をこぎ始めて數十分、ようやく学校の校舎が見えてきた。さあ、いい加減両親への感情なんか忘れて、学校生活を楽しもうじゃないか。

「……それができたら、苦労しないけどさ」

苦笑しながら呟いたその一言は、そばを通る車の走行音によつてかき消された。

寝起き（後書き）

更新が遅いのは錯覚だ キニスルナ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3297p/>

科学宗派の魔女

2010年12月6日03時47分発行